

# 平成30年度幼稚園教育課程研究協議会 第3分科会 協議概要

発表者	同朋認定こども園	岩城 愛
記録	早月加積認定こども園	谷井しのぶ
	西加積認定こども園	土肥 素子

## 1 伝達講習の概要

- (1) 幼稚園教育要領の改訂の基本方針
- (2) 幼稚園教育要領総則の改正の要点
  - ① 幼稚園教育の基本
  - ② 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
  - ③ 教育課程の役割と編成等
  - ④ 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価
  - ⑤ 特別な配慮を必要とする幼児への指導
- (3) ねらい及び内容の改善・充実
- (4) 教育課程に係る教育時間終了後等に行う教育活動等
- (5) 体力向上マネジメント
  - ① 体力の捉え方
  - ② 幼児期における身体活動の現状
  - ③ 幼児期における運動の意義
  - ④ 幼児期の運動の在り方
  - ⑤ 体力向上マネジメントの推進

## 2 研究発表の概要

- (1) 分科会協議主題  
幼稚園における教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動について
- (2) 研究の視点
  - ① 教育時間の終了後等に行う教育活動（預かり保育）の計画において、どのようなことに工夫・配慮が必要かを探る。
  - ② 地域の様々な物的環境や人的環境を活かし、多様な体験ができるようにするための工夫を考える。
- (3) 実践より明らかになったこと
  - ① 視点1について
    - ・利用人数を考慮し、家庭的な雰囲気の中で過ごせる環境をつくることで、幼児は安心して自分のやりたいことを自分のペースで行うことができる。一日の活動の流れを考慮した無理のない生活になるように、預かり保育担当者は、担任や保護者と連携を密にしながら環境を整えることが大切である。
    - ・今日の予定（降園時刻や預かり、バス利用等）を自分でチェックボードに表示することで、幼児は見通しをもって生活することができる。保育者は幼児にできることは任せて見守ることも大切である。
    - ・ルールを簡単にしたオセロゲーム、幼児が興味をもちそうな絵本や玩具等、年齢発達を考慮し幼児が楽しめる遊びを工夫したり提供したりすることで、幼児は安全に気を付けて楽しく遊ぶことができる。
  - ② 視点2について
    - ・お父さん先生の活用や近隣の公園の散策等、地域の人的・物的環境を活用することで、預かり保育のマンネリ化を防ぐことができる。活動の計画を立てる段階から職員間で話し合い、改善していく積み重ねと、十分な計画の下で臨機応変に変更する柔軟さを大切にしたい。

(4) 今後の課題

- ・ 幼児の心に寄り添い、保護者も安心して預けることができるような無理のない預かり保育の在り方を今後も模索していきたい。
- ・ 地域の人的・物的資源を活用しながら、家庭では味わえないような楽しい活動を探り、提供していきたい。

3 協議の概要（グループによる各園の情報交換）

(1) 視点1について

- ・ 利用人数や安全を考慮しながら、部屋を分けたり合同で保育をしたりしている。
- ・ 年少、未満児は午睡の時間を設ける、同じ部屋で過ごす時はゆったりできる時間とコーナーをつくるなど、家庭的な雰囲気を大切に、幼児の心身に負担がかからないようにしている。
- ・ 年齢に応じた遊びができるように環境を見直し、未満児が使っても丈夫な玩具を検討し、怪我や誤飲がないようにしている。

(2) 視点2について

- ・ 通常の保育では、散歩や地域の人との交流をしているが、預かり保育の時間は職員の配置体制や幼児の降園時刻が違うため計画が難しい。
- ・ 預かり保育に多様な活動を取り入れると、預かり保育を利用していない幼児との差が生じるので実施の仕方や取り組み方を検討している。

4 指導助言事項 東部教育事務所 大坂 由喜子 指導主事

(1) カリキュラム・マネジメント

- ・ 預かり保育は、教育課程を終えた後、ただ幼児を預かるというのではなく、幼児の豊かな育ちを保障する教育活動が十分に行われるよう、計画を立案することが重要である。
- ・ カリキュラム・マネジメントには、3つの要素「園が何をを目指すのか、何を指導するのかを検討する」「うまくいっているかどうかを見直す」「みんなで協力する」が含まれており、行政、関係機関、家庭との連携を図りながら、園長を中心に職員全員でカリキュラムを実行し、見直すことが大切である。

(2) 安全と健康を確保する環境づくり

- ・ 預かり保育を人数に応じて柔軟に構成することで、幼児は安心して好きな活動に取り組むことができ、担任と預かり保育担当者との連絡を取り合うゆとりも生まれる。
- ・ 幼児の心や体の健康状態や季節等に配慮して、必要に応じて午睡の時間を設けたり、いつでもくつろげる場所を設けたりしていくことが、幼児一人一人の居場所をつくることになる。
- ・ チェックボードを活用し、おやつを食べる時間を自分で決めたり、自分の降園時刻を把握したりすることで、遊びとの折り合いを付けながら自ら考えて行動できるようになり、自立の基礎を培うことにつながる。
- ・ ルールを簡単にしたオセロゲーム、興味のある絵本や玩具の配置等、環境の中に教育的価値を含ませながら、幼児が落ち着いて取り組める遊びを工夫している。準備、遊び、片付けまでを一連の流れとして自然にできるような環境をさらに工夫していくことが望まれる。
- ・ 預かり保育が教育活動として安全で適切な活動になるように、緊急時の連絡体制を整備し、日頃から幼児の安全確認について職員全体で意識を高めることが大切である。

(3) 家庭や地域との連携

- ・ 園の教育方針や幼児の様子について、日頃から保護者や地域の人々と情報を共有し、園のよき理解者になってもらうことが、預かり保育の充実につながる。
- ・ 預かり保育において、保護者参加の機会を提供したり、写真等で活動の様子を伝えたりすることが、保護者の「園と共に幼児を育てている」という意識を高め、家庭教育の充実につながる。